

# 和し 鍛え 学ぶ

先週から合唱特別日課が始まりました。日課を工夫し、授業後に30分の時間を生み出して練習時間の一部にあてています。9月26日（金）の合唱コンクール本番が1週間後に迫る中、朝や放課、帰りの時間などに寸暇を惜しむように歌う生徒たちの声が聞こえてきます。歌声は日に日に大きくなり、各パートの音もしっかりしてきて、美しいハーモニーが響いてくるようになってきました。生徒たちは、よりよい合唱にしようと、学級で声を掛けあいながら頑張っています。

保護者の皆様、当日はぜひ生徒の歌を聴きにきてください。今、この時しか聴くことができない生徒たちの歌声に、私たちと一緒に温かく耳を傾けていただけると嬉しいです。



## 宝物がいっぱいつまった合唱を聴かせてください

生徒の皆さん、合唱を楽しんでいますか。私は合唱がとても好きです。特に中学生の歌声を聞くと、何とも言えない感情が心の中に広がります。一言で表すことは難しいのですが、大人の合唱やプロの合唱を聴いた時には感じることもない、心を揺さぶられるような感覚です。大人でも子どもでもない、中学生というこの時期だけの歌声。その時間の煌<sup>きらめ</sup>きとともに聴いている人を惹きつけてやまない不思議な魅力がある、そんなことを感じます。

毎年、中学生の歌を聴いて思うのですが、恐らく私を含めて、皆さんの合唱を聴く人たちは、ただ「うまい合唱」を聴きたいのではないです。そこに込めた皆さんの思いや、ひたむきさ、学級のみんなで積み重ねた時間、皆さんの姿「そのもの」を聴きたいのです。そうした歌声に包まれながら同じ時間を共有できることに、聴いている人は幸せを感じるのだと思います。

皆さんが歌う曲は、作詞者や作曲者によって丹精込めて書き上げられた作品です。楽譜に書かれた音符の一つ一つ、休符の一つ一つに作曲者の思いや考え、理由や意図があります。楽譜をよむことは、文学作品の読み取りと似ていると感じます。作家が言葉の一つ一つを吟味<sup>ぎんみ</sup>して紡<sup>つむ</sup>いだ作品を読み取るのと同じように、楽譜に書かれた記号や音符、休符などの意味を考えつつ、作品と対話する気持ちで表現してほしいと思います。



音楽には終わりがいいからおもしろいです。音楽に限らず全てのことに言えると思いますが、受けとる側<sup>がわ</sup>の力が上がれば上がるほど、見えなかったことが新たに増えてきて、さらに深い世界が広がっていることに気がつきます。皆さんの合唱が積み上げられ、育っていく過程を毎日嬉しく見ています。今しかないこの時間をみんなで大切にしながら、唯一無二の、宝物がいっぱいつまった合唱を創り上げてください。皆さんは、自分たちの学級の合唱にどんな宝物を入れますか。